

## 一般質問

2014年9月10日（水）

古賀市議 奴間健司

### <第1質問>

こんにちは。古賀市議会議員の奴間健司です。3年半ぶりに一般質問をします。議長を交代していただいた西尾副議長に心より感謝申し上げます。

さて、今の時代は、くらしや平和、子どもたちの未来に対し、多くの方が不安や危惧を抱いている時代です。市民にとって最も身近な政治にかかわる私たちは、何をなすべきか、どう生きるべきか、真剣に考えなければならない時代です。

私は2008年、岩手県の沢内村、今は西和賀町と言いますが、視察に行ったことがあります。1960年に、保健師と共に乳児の死亡率ゼロ、子どもや高齢者の医療費無料化を達成した深沢晟雄（ふかさわ まさお）村長の足跡をたどるためでした。深沢氏は、「生命の尊厳・尊重こそが政治の最大の使命」、「村民の生命を守るためには命を懸ける」「国がやらないなら私がやる」という政治理念や言葉を残しています。

「市民の健康あつてのまちの健康」という基本理念に基づき、私も深沢氏のような生き方をめざしたいと思っています。

そのような問題意識に沿って、以下質問します。

- 1 韓国との姉妹都市を締結するなど、アジアとの平和友好の架け橋として役割を發揮したらどうか。
- 2 第4次総合振興計画の人口目標6万5千人を見直すことで、より実際的政策を打ちだせるのでは。住宅・移動手段・在宅医療など少子・超高齢化、人口減少時代への備えこそ戦略的最重要課題ではないか。
- 3 青少年育成に総力を注ぐべきではないか。平和と絆、減災を考える体験保障として小中高生の長崎、広島、東北派遣事業に来年夏

に計画してはどうか。

4 健康寿命延伸をまちづくりの全分野に徹底させてはどうか。保健師など地域担当職員を設け、全ての公民館等を拠点とした健康づくりを10年以内に実現すべきでは。

杏林大学の金田一秀穂教授は、安倍首相はじめ今の政治家の言葉が軽いと批判し、政治家は言葉それ自体が行為だと自覚せよと訴えています。政治の言葉は、約束する、宣言するという意義があることを肝に銘じて、議論することを望みます。

以上、市長、教育長に答弁を求めます。

### <第2質問>

再質問に入る前に市長にお尋ねします。市長は一昨日、2期目に挑戦することを表明しました。公約等は後日発表するとのことでした。これまでの答弁を聞く限り、公約はまだ固まっておらず、一般質問における議論も最終判断に反映できる可能性があると感じました。それを前提に再質問しようと考えています。選挙直前の一般質問の意義は大きく、無駄にしたくないのであえてお聞きしますがいかがですか。

### <第3質問>

まず、アジアとの平和友好の架け橋についてです。

私は今の時代だからこそ、めざすべき都市像として、「アジアに開かれた平和・人権都市」を掲げるべきだと考えています。船原古墳遺物埋納坑から金銅製馬具が発掘されたことから、その思いがますます強くなりました。

福岡大学の桃崎教授は、当時の大和政権が朝鮮半島の新羅と一触即発の状態になっていたもとで、古墳の被葬者は大和政権からも新羅からもアプローチを受ける立場の人物だったのではないかと述べました。この地域は朝鮮半島と重要な関係にあったと思われます。

中国、韓国との国家関係が冷え切ったこの時期の発掘は、古墳時代からのタイムリーなメッセージではないかと思えます。これを契機に、アジアの平和友好に貢献しようという思いを市長と共有できるのかどうかお尋ねします。

#### <第4質問>

その具体化として姉妹都市、友好都市は意義があると思えます。**フリップを見てください。**1989年に768件だったものが2013年には1661件に増えています。

福岡県では、県と両政令都市、大牟田市、宗像市など11市3町が提携しています。相手国としてアメリカ、中国、韓国が多くを占めています。宗像市は今年4月に韓国に市と議会の代表ならびに地元高校生が訪問し交流を深めています。特に未来を担う若者が交流する意味はとて大きいと思えます。

姉妹都市は今のところ考えていないとの答弁でした。馬具の価値が確定するまで10年近くかかると言われています。その間に市民意識を高揚させるためにも姉妹都市の実現に向けた努力は有効だと考えます。いかがですか。

#### <第5質問>

私も、姉妹都市・友好都市の実現に向けて努力したいと思えます。

次に人口目標の見直し問題です。あらかじめ断っておきますが、定住化策や開発がどうでもいいということではありません。将来を見通し、今実行しておかなければ取り返しがつかなくなる課題を浮き彫りにしたいという思いです。

答弁は、人口減少は課題として認識しているが、65000人をめざすというものでした。

**フリップを見てください。**これは、古賀市の人口の実績推移と2

040年までの推計です。増加し続けてきた人口が、2013年から今年にかけて減少しています。

第4次総合振興計画の目標年次である2021年ですが、目標は65000人、推計は60850人、国の社会保障・人口問題研究所の推計では59248人です。目標人口と市の推計人口の差は4150人です。社会保障・人口問題研究所の推計値との差は5752人とさらに広がります。

この差は無視できない差であることは明白だと思います。見直さない理由を聞かせてください。

#### <第6質問>

他の自治体が人口の問題をどう扱っているか紹介します。

大野城市では今年3月に後期基本計画を策定しました。大野城市が置かれている時代背景を5点にまとめていますが、その一番目に人口の問題を述べています。

大野城市は、今後しばらくは人口増加が続くが、それもお踊り場を迎え、減少への曲がり角を曲がれば、高齢化の波は、より顕著に押し寄せることが予測されると分析しているのです。

目標年次である2018年の予測だけではなく2037年度までの予測も行っています。

人口増加が続いている大野城市がこうした真剣な分析をしているのです。学ぶべきだと思いますが、いかがですか。

#### <第7質問>

市のトップがこうした現状の分析・研究を指示し、庁議などで古賀市の将来見通しや課題、つまり戦略的議論を行おうという意欲が見られない。いわば「頭脳」の部分が確立していないところに深刻な問題があると思います。現場では現実的な人口推計で個別計画を立て、仕事をしているのです。頭脳の部分を集中的に立て直せば、

皆すっきりとし、力を発揮できると思いますがいかがですか。

#### <第8質問>

自らが掲げる経済優先路線がある以上、65000人目標を低めるわけにはいかないと考えているのですか。それは自己保身であり、古賀市の将来への責任ではないと言わざるを得ません。

私は昨年11月に松本市に行きました。菅谷昭市長は、超少子高齢型人口減少社会への対応の必要性をいち早く認識し、いのち・人生の質を高める「転換の時代」、「量から質への発想の転換」を掲げています。それが健康寿命延伸都市の創造につながっています。こうしたトップリーダーの視点を学んでほしいと思います。

2期目に挑戦するならば、古賀市の将来見通しを明らかにし、自らの基本路線を若干修正し、実際的な政策を訴えるべきだと思います。それがかえって市民や職員の信頼を得るとは思いますがいかがですか。

#### <第9質問>

人口目標問題はこの程度にします。この問題を解決すれば、住宅、公共交通、在宅医療など行政として今力を入れるべき課題が明らかになると思います。そうした基盤づくりができてこそ、経済活動の活性化も裏付けられます。

次に、青少年育成に総力を注ぐ課題です。答弁では、「力強い後押し」と受け止めていただきました。

この点では、青少年育成市民会議の皆さんには大変ご苦勞をおかけしています。その取り組みの一つに、少年少女の主張作文募集と発表会があります。毎年200人以上の応募があり、いじめ、環境、平和など立派な作文が寄せられています。

今年の2月には小学生、中学生の代表10人が初めてこの議場で

堂々と作文を発表し、傍聴席は保護者や学校関係者でいっぱいになりました。自分の意見をまとめ上げ、人前で述べるとともに、他者の意見に耳を傾けることができる人材はとても必要です。こういう人材を輩出するチャンスを、市をあげて積極的に作るべきだと思います。これは、市長に答弁をお願いします。

#### <第10質問>

これは実質的には「こども議会」としての意義があります。市内には看護大学と二つの高校があります。議会と行政が協力して、こうした学生たちが毎年議場で若者の意見発表を行ってもらおう。そしてまちづくりに活かせる政策提言を採択して具体化する。このような取り組みができれば素晴らしいと思います。若者の政治参画につながります。「こども議会」さらには「高校生・大学生議会」へと夢が広がりますが、その実現に向けて力を割く意思はありますか。

#### <第11質問>

神奈川県藤沢市は核兵器廃絶平和推進基本条例を制定しています。それに基づき、この夏、小学生と保護者6組を広島に2泊3日で派遣しました。また、小中高生40人を3泊4日で長崎へ派遣しました。帰ってから市長や議会、学校関係者への報告会や取材レポートの提出などに取り組みます。

大野城市では、2012年から毎年中学生10人を東日本大震災被災地に4泊5日の日程で派遣しています。被災地の中学生と交流しています。

子どもたちにとって忘れることのできない経験となっています。

古賀市でも、来年の夏休みに何か一つでも具体化するため調査・研究したらどうかと思いますが、その意思はありますか。

#### <第12質問>

東日本大震災直後、古賀市の職員も東松島市に応援で駆けつけました。私も東松島市の市長や議長と会ってきました。こうした経験を、子どもたちの交流につなげていければ、きずなを深め、防災・減災の取り組みにも役立つと思います。

大野城市では安全安心課と新コミュニティ課が担当して減災研修会を開催し、そこで中学生に報告をしてもらっています。この取り組みは来年夏休みに実現の可能性は高いと思います。市長に答弁を求めます。

### <第13質問>

最後に、健康寿命延伸をまちづくりの全分野に徹底させる件です。

**このフリップを見てください。**日本の男性の平均寿命は2010年で79.55歳、健康寿命は70.42歳でその差は9.13年です。女性の場合は86.3歳と73.62歳でその差は12.6年です。男性で9年、女性で13年が介護等に頼る期間です。福岡県の健康寿命は、男性で47都道府県中40位、女性で44位となっています。

松本市ですが、2009年の男性の健康寿命は77.3歳、女性は80.4歳となっています。これは全国平均と比べて男女とも7.7年長くなっています。それを2015年に男性で77.6歳、女性で81.1歳に伸ばす目標を掲げています。

先ほど、健康寿命延伸は重要課題であり、様々な分野と連携して取り組んでいると答弁されました。古賀市の健康寿命は何歳なのか、平均寿命との差は何年か。現状把握と目標設定はいつごろできますか。

### <第14質問>

今後の平均寿命と健康寿命との差が拡大すれば、医療費や介護給付費がより多くかかるということになります。

古賀市の財政約300億円のうち、介護保険、生活保護、障害者福祉、医療費など市民の健康度や高齢化で左右される経費が約100億円にのぼると言われています。

待ったなしの課題です。健康寿命を伸ばす取り組みを相当に強めなければ、古賀市の財政に深刻な影響をもたらすと思いますが、いかがお考えですか。

#### <第15質問>

古賀市の保健福祉部の職員の皆さんは、その辺の危機感をもって頑張っています。特定健診、がん検診、特定保健指導など受診率向上に向けて奮闘しています。歯科検診の充実も今後重要になります。

私も議員活動を通じて、その環境づくりに少しはお手伝いしてきたと思います。

私が正規保健師の増員を提言したのが、2008年12月議会と2009年3月議会のことです。当時正規職員の保健師は6人でしたが、6年たった現在、9人になりました。

また、私が骨密度測定器の活用を提言したのが2010年6月議会と9月議会でした。4年たった現在、骨密度測定器が3台、体組成計が2台、塩分測定器が5台そろいました。骨密度測定実績は、2012年度3235人、2013年度3785人、2014年度は7月時点で2130人となっています。小中高生で1800人が測定しているのも特徴です。

市長はこの状況をどう評価していますか。

#### <第16質問>

これは2025年問題に備えるための基礎的な条件が整っているということだと思います。待ったなしの課題に立ち向かえる環境です。あとはトップのリーダーシップにかかっていると思いますがいかがですか。



### <第17質問>

9月4日のNHKクローズアップ現代は「減塩社会」への挑戦というテーマでした。

減塩は高血圧などの生活習慣病だけでなく、胃がんや骨粗しょう症まで幅広い疾患の予防に効果があることがわかってきました。しかし日本は世界的に見て摂取量が多い「減塩後進国」です。原因は調味料をはじめ加工食品などからの塩分摂取です。

イギリスでは、政府が85種類の食品の塩分量の数値を示しました。たとえばパンなら100g当たり塩分は1g。日本は1.3gです。食品工業関係者は当初、客離れを懸念したそうです。しかし、3年間で塩分摂取量を10%削減させ、医療費も2100億円削減できたというのです。

私はこの番組を見て市内の大手パンメーカーはどうしているのだろうかと考えました。翌日さっそく問い合わせたところ、食パンでは100g当たり塩分は1.1gにしていることがわかりました。スーパーで確認したら食パンの包装紙に明記されています。さすがだと思いました。これも健康寿命延伸につながる取り組みだと思いますが、市長、いかがですか。

### <第18質問>

食の祭典には多くの市民が駆けつけ、古賀市の特徴となっています。さらに、健康寿命延伸に貢献する食品産業というイメージをもっともっと発信していいのではないのでしょうか。商工政策の分野にも健康寿命延伸が位置付けられます。これがモデルとなって国を動かし、「減塩後進国」の汚名を晴らすことにつながれば素晴らしいことです。どうでしょうか。

### <第19質問>

クローズアップ現代ではもう一つ事例が紹介されました。

広島県呉市では、学校給食の1食あたり塩分を2011年の3.1gを2.3gに減らす目標を掲げました。たとえば小分けのマヨネーズを小さくしたり、ドレッシングを手作りに変えたりしたそうです。2014年7月時点では2.5gまで減少させました。

子どもたちは、家庭の料理より学校給食の方がおいしいと感想を述べていました。子どもの中に薄味になれることが大事だと言っています。

古賀市の学校給食はどうだろうかと思い、さっそく問合せしました。ダシは手作りで取るなど減塩に力を入れています。しかし、1食あたりの塩分の測定や目標の設定には至っていないとのことでした。

学校教育、給食の分野でも健康寿命延伸をしっかりと位置づけることができると思います。市長、教育長、いかがですか。

## <第20質問>

日本も来年度から1日当たりの塩分摂取量目標を男性は9g未満から8g未満に、女性は7.5gから7g未満に改めます。WHOの5gより多い目標ですが、減塩を促進する方向は明確です。

さて、健康寿命延伸のためには、地域での日ごろからの取り組みが大きな要素となると思います。地域のきずなが強いところほど健康寿命が長いという報告もあります。

松本市では、校区単位の福祉ひろば、コミュニティセンターですが、そこで毎月、地域担当の保健師による健康相談が実施されています。そのもとに自治会の集会所があり、そこでも同様の取り組みがあります。

さきほど、ヘルステーションを設置し、行政区単位での健康づくりを徐々に市内全域に広げると答弁がありました。

2025年問題まであと10年です。私は、10年以内に46行政区すべてに実現する目標を、市長が先頭になって達成すべきだと考えます。徐々にでは間に合いません。いかがですか。

### <第21質問>

私が住んでいる花見東2区公民館の取り組みを紹介します。毎月第2と第4木曜日に気軽にお茶を飲みながら集える「木よう館」が定着していました。そこに市の保健師に来てもらい、骨密度や血圧を測定しながら健康相談を行ってもらいました。看護大学の保健師をめざす学生も来て、地区診断の経験を積みました。さらにグリーンパークから野菜や生花などの移動販売をしました。大変喜ばれています。

NHKで訪問看護師の秋山正子さんが生み出した「まちの保健室」が紹介されました。病院でも施設でもなく、老いや病の不安に寄り添い、毎日のように話し相手となれる場所がこれからますます必要になります。

区長さんのお話を聞いてみると、この取り組みを継続するにはスタッフと場所が必要だとおっしゃっていました。保健師も3カ月に一度という計画のようです。

答弁の中に、保健師及び管理栄養士の地域担当制を試みているというのがありました。業務が忙しいことに加えて挑戦していることは本当に素晴らしいと思います。しかしもうすこし地域に密着できる職員体制をつくらないと間に合わないと思います。いかがですか。

### <第22質問>

松本市では、400の自治会にそれぞれ2人ずつ健康推進委員を出してもらっています。2年任期で研修をしますが、市の必要性に応じるのではなく、それぞれの地域での活動に取り組みます。

古賀市でも46行政区から2人ずつ、92人の健康推進委員を出

してもらような取り組みも必要ではないでしょうか。委員になった人は自分の健康や家族の健康にもその経験を役立てることが出来ます。こうした人材育成を、市をあげてバックアップすべきだと思います。いかがですか。

<まとめ>

8月に岡山市で開催された全国市議会議長会研究フォーラムに出席しました。そこで龍谷大学の土山准教授が、一般質問は議会にとって政策資源だと講演していました。

各議員が時間をかけ、苦勞しながら準備する質問です。今回は14人が一般質問をしました。その成果は貴重な政策資源です。大事なことはその結果を議員間で議論し、政策資源を政策提言にまとめ上げることです。

一方、積極的で賢明な市長であれば、その政策資源を頂戴し、スピーディーに具体化するでしょう。それがかなわないならば、政策資源を公約、マニフェストにまとめあげ、市長に挑戦する場合もあるでしょう。

今、9月10日という瞬間はどの可能性もあると思います。どの可能性も大切にし、建設的に機能するよう全力を尽くすべきだと思います。それが市民の負託に応える私たちの責務だと思います。

私の名前、健司は、「健康を司るような人に成長してほしい」という両親の思いが込められた名前です。そのことを父親から聞かされたのは高校3年生の時でした。私が生まれた加賀市の田舎では、献身的に働く開業医が早死にしたそうです。

私は、20年近い議員活動を経験しましたが、市民の健康、まちの健康をつかさどることが私の使命なのかと改めて考えています。

3年半ぶりに一般質問ができたこと、また副議長ならびに同僚議員の皆さんのご理解のもとここに立てたことに感謝しながら私の一般質問を締めくくります。ありがとうございました。